

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・今後2～3か月は卒業式等があり花屋にとって一番良い時期になる。ただ、現在は雨風をしのぐだけの仮店舗であり、どう上手くやるかにかかっている。駐車場は以前の店舗を取り壊した場所があるので客は入りやすくなっている。
		百貨店（経営企画担当）	・1月上旬は初売りが好調で、売上・来客数共に前年を上回ったが、中旬から下旬は大雪等の天候要因により大幅に落ち込んでいる。昨今では天候に関する報道が過熱し、客足が伸び悩む傾向が強い。
		商店街（代表者）	・1月の景気は悪かったが、2月はやや持ち直してくる。
		商店街（代表者）	・年度末に向けて物や印刷物が増える。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・1月の後半から供給量が落ち着き、高値だるみで相場が落ち着いてきた。寒さは変わらないが2月の後半から3月になると寒さも緩んできて、全体的に商品の物流が増えてくるためやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・高額品の動きが好調傾向である。
		スーパー（統括者）	・食料品については、客の財布のひもが固いことで値段が下落傾向にあったが、ここにきて少しずつ高単価の商品も売れ始めるようになっており、今後は安値競争からの脱却も視野に入ってきた。
		家電量販店（従業員）	・新生活に向けて家電の需要が増える。
		乗用車販売店（販売担当）	・現在の来客数の多さから考えると今後もしばらく売上は良好さを維持できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・今年度は記録的な寒さもあり季節商材が続いて消費され、施設動向も好調を維持している。今後も景気は緩やかに回復していく。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・春休み頃から大河ドラマ効果により売上が伸びる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・前年の催事の反動が緩和し、外国人観光客は顕著に増加する。
		都市型ホテル（副支配人）	・2～3月は受験、4月は催事を中心とした団体の予約が入っている。
		タクシー運転手	・週末に不足するホテルの数も徐々に増加しており好調さは維持できる。
		通信会社（店員）	・IoTやAI等の発展で違う分野の可能性が高くなる。
		通信会社（企画担当）	・新規販売経路の販売量増が引き続き期待できる。
		観光名所（従業員）	・2月までは今の状態が続くが、3月に入れば気温も暖かくなり客が戻ってくる。
		美容室（経営者）	・春になると美容業界は明るくなってきて景気は回復する。客の動きも出てきて商品も動き、新しい風が入ってきて元気になる。2～3か月先は良くなる。
		理容室（経営者）	・雪や寒さにより客の動きが悪く前年比でかなり悪かった。2～3か月先は卒業・入学があり、幾らかは期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税の引上げに対して早めに動く客が、これから少しずつ出てくる。
	商店街（代表者）	・客の毎月の収入が増額していれば消費に向かうだろうが、支出は増えても収入は増加していない。	
	商店街（代表者）	・春先になり春物が出てきて売上は増えるが前年と比較すると変化はない。良くなる感じはない。	
	商店街（代表者）	・外国人観光客が増える話も聞くが、当地は外国人観光客を見かけるものの小売店にはまだ影響はない。通常の客も必要な物のみ購入するといった状況が更に厳しさを増す。	
	商店街（代表者）	・一層の買い控えがある。主婦は大変である。現状は余り変わらない。	
	商店街（代表者）	・高額商品は伸び悩むが、気温の低い日が続く実用品の売行きに期待できる。	
	商店街（代表者）	・今の状況が良くなる要因が全くない。	
	百貨店（総務担当）	・販売に加え、サービス店舗の動きも止まり、状況が好転する材料が見当たらない。	
	百貨店（営業担当）	・全体的にみると間違いなく良くなっている。飲食業界も好調で以前にはない活況が出ている。そのなかで百貨店が遅れている。今のところ落ち着いているが、平昌オリンピック以降が懸念される。最近円高に振れている。	

百貨店（営業担当）	・自家需要商材のスポーツ用品、化粧品雑貨、紳士婦人肌着が好調である。改装効果で婦人雑貨は来客数の好調を維持し、生活用品寝具、バス、インテリア、食器等の自家需要商材や、し好性の高い海外製品、貴金属、美術工芸も好調で、家庭での生活を充実する意欲と慎重な購買姿勢は続いている。クレジット決済伸長と単価回復で今後も期待できる。
百貨店（営業担当）	・大きく景気が上向きと与件がない。
百貨店（営業統括）	・株価や円相場は引き続き安定しているものの、消費に対して楽観的になれる要素がない。
百貨店（業務担当）	・衣料品を中心に客の購買意欲は目に見えて低下している。今後、春物が出てくるが客の反応は鈍い。
百貨店（売場担当）	・県庁の移転が1月から始まり、その影響がどうなるか分からない。弊社だけでいうと4月頃に改築をするので前年を超えるかもしれないが、他店はほぼ前年の水準前後のため、それを勘案して「変わらない」という評価しかできない。1月の外国人観光客向け売上の伸びが高く貢献している。
百貨店（店舗事業計画部）	・高所得者層、外国人観光客の消費は続いて伸長しており、全体の売上は増加しているが、中間層の消費は大きくは伸長しておらず楽観視はできない。
百貨店（マネージャー）	・景気が賃金上昇に反映してくれば、一般消費が伸長するが、現状、賃金に反映している企業が少ないため、現状は変わらない。
スーパー（店長）	・最低賃金の値上げによって非正規社員の所得が一部上がっているが、将来の社会福祉の不安等もあり、消費につながっていない。
スーパー（店長）	・以前と比べて客の購買量が少なくなってきた。高齢化により販売量も少なくなっている。野菜の価格が持ち直してくれば少しは増えてくるが、季節商材が売れていないので余り変わらない。
スーパー（店長）	・前年は熊本地震の需要があったが、青果は相場高で売上は前年比増で推移している。鮮魚が前年夏頃から風評被害の影響が続いており前年の63%と厳しい状況が続いている。またパン屋が厳しくこの流れはあと半年は続く。卒業式・入学式などの需要で売上を伸ばすしかない。
スーパー（店長）	・変化する材料が見当たらない。
スーパー（総務担当）	・競合地区にドラッグストアやディスカウントストアの出店が続いており、来客数が減少した反面、購入点数と客単価は上昇している。来客数増につなげられるほどの購買意欲の向上は認められない。
コンビニ（経営者）	・一部の公共料金の値上げや景気の動向も地方では芳しくないため今月以上に厳しい状況が続く。
コンビニ（経営者）	・良くなる条件も悪くなる条件も見当たらない。客の状態からみてやや悪い状態が続く。
衣料品専門店（店長）	・今と変わりはない。
衣料品専門店（店長）	・前年の九州北部豪雨の影響がまだ強く、来街者がほとんどいない。たまに来る客の購買意欲も冷え切っている。
衣料品専門店（店員）	・景気の動向に変化があるような兆しが何もない。
衣料品専門店（総務担当）	・今後景気が良くなることは全く考えられない。むしろ悪くなる。
衣料品専門店（取締役）	・株は若干上がっているが4月は新年度で物入りである。余裕のある客は購入するが、それ以外は好材料が見当たらない。
家電量販店（総務担当）	・春の引っ越しシーズンまでは余り期待できないし、少子化の影響で引っ越し需要も年々縮小している。
家電量販店（広報・IR担当）	・景気が良くなるという実感はない。停滞感が強い。
乗用車販売店（代表）	・変わる気がしない。
乗用車販売店（総務担当）	・新型車や安全装備の追加された車両等に人気があり、引き続き新車販売は堅調に推移する。
住関連専門店（経営者）	・都市部では来客数は順調だが、地方では売上と来客数が伸び悩み景気の回復感がない。また年末から石油製品の値上げが続いており配送経費等の値上がりで経営が圧迫される。
その他専門店〔コーヒード豆〕（経営者）	・1～2月は例年では売上が減少する時期であるが、新規客が若干増えており前年同様、若しくはやや良くなる。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・株高や雇用の好転ばかりが報道されているが、消費の現場は全く回復していないことも数字で示されている。結局、米国型格差社会がひどくなっていっていると感じられない。
ドラッグストア（部長）	・不安定要素はあるものの、現状としては安定しており、当面続く。

その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・春は、人の移動がある時期であり、行楽の時季でもある。観光客及び異動に伴う物流消費に期待したい。
高級レストラン（経営者）	・街中に勢いがなく、寒くて人通りが少なく会合も盛り上がり、景気が盛り上がってこない。
高級レストラン（経営者）	・良くなると感じているが、予約が入っている途中なのでどちらとも言えない。
高級レストラン（支配人）	・今現在の2～3月の予約状況を見る限り良くない。
スナック（経営者）	・新年会等、団体の動きが今年は全くみられない。株価の上昇や仮想通貨の需要の拡大など景気の回復を匂わせる報道を聞くが、一般消費には関係ない。川下の産業への恩恵は程遠い。
観光型ホテル（専務）	・地域面でも景気が良くなる要素が思い当たらない。
都市型ホテル（販売担当）	・2月は売上が伸び悩む月で3月は販売量が増えていくが見えない部分が多い。
都市型ホテル（スタッフ）	・2～3月は大型の学会があり前年よりも先行予約は多いが、その他は低調である。
旅行代理店（従業員）	・海外では燃油サーチャージの一層の上昇が懸念され、旅行意欲に影響が出そうな気配である。国内は、関西の大型レジャー施設の人気が続く。
旅行代理店（企画）	・店舗の来店状況に影響される。
タクシー運転手	・気温が10度くらいに暖くなれば若干人の移動、景気の浮揚が考えられる。
タクシー運転手	・昼のタクシー利用が少ない。夜は卒業式や異動の時期になり利用も増えてくる。
通信会社（企画担当）	・Web制作やホスティングサービスの需要はなくなりはないものの、単体での発注はなくなってきている。新たなサービスや技術を入れて、新しい分野にも手を出したり追い付いたりする努力が必要である。
通信会社（営業）	・前年末まで多くの依頼と販売促進活動をしてきたが、劇的な効果はなかった。しかし、マイナス要素はある程度補っているため、実績的に前年並みの水準には持っていける。
通信会社（営業担当）	・観光業、建設業に大きな動きがなく、現状維持が精一杯である。
ゴルフ場（従業員）	・年度末に向けて財布のひもを締めたり、公共事業を請け負っている建設会社は作業の進行を速くしたりいろいろあるが、需要と供給のバランスが悪い地方では、上昇気流に乗るのはなかなか難しい。また新たな税金の使い方を政府が考えてくれれば反映される。
競輪場（職員）	・良くなる、悪くなるといった判断ができる信号・指標が見当たらない。
競馬場（職員）	・今後平昌オリンピック等で観戦者が減少する懸念もあるが、夏ほどの影響はないため、変わらない。
美容室（店長）	・景気が良くなる様子がなく現状のままである。
設計事務所（所長）	・生活必需品の値段が上昇しているが仕事の収入は上がらない。
設計事務所（所長）	・大きな物件はないが小さな物件は定期的にあるので2～3か月先も変わらない。
設計事務所（代表）	・良くなる要因等がない。
一般小売店〔精肉〕（店員）	・利益率の高い商品が生産終了となり、買換え商品も見つからない。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・特に伸びていく材料もなく、なすがままである。近所の同業者も閉店するという事で小売店はますます厳しくなっている。
スーパー（店長）	・社会情勢で消費動向が動くような好事例は見いだすことができず、逆に商圏内における競争が今後厳しさを増す。
コンビニ（店長）	・今より良くなることはない。
一般レストラン（経営者）	・前年度よりも予約状況が悪い。
観光ホテル（総務）	・熊本地震の復興需要の力強さが薄れてきている。
都市型ホテル（スタッフ）	・個人・団体客の予約状況に勢いが見られない。
音楽教室（管理担当）	・転勤族が転勤していくと生徒数が減る。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・4月の介護報酬改定については全体でプラス改定の方向性が示されたが、総合事業による単価の下落や人材確保難の問題があり、今後の安定経営には懸念がある。

		住宅販売会社（従業員）	・受注が増える、売上が良くなる、といった実際に景気が良くなるような金回りではなく、株や投資等の実体のない仮想の景気の良さであやふやである。賃上げができる企業は良いが、下支えしている人たちの賃上げもないと、景気は今のままである。
	x	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・良くなる要素がない。希望がない。どうしたらいいのか。
企業 動向 関連 (九州)		-	-
		農林水産業（経営者）	・2月はまだ厳しいが3月になると行楽時期や人の移動時期も重なり期待できる。4～5月も現状の鶏相場の動きからして問題はない。卵相場は供給過剰から低迷し、減量となる鳥が多く発生する。働き方改革で人手不足があるため工場の生産に不安がある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・不動産業界への需要に伸びがある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・2～4月は入学、結婚等の時期でセット物が上向いてくるので良くなる。
		鉄鋼業（経営者）	・販売価格が上昇しているなかで受注量が減少せず安定している。需要が堅調なためである。
		金属製品製造業（事業統括）	・新規液晶関係の受注、売上が始まる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月後は新年度に入る。それと同時に新年度の動きとして、今期の決算状況を見ながら客はそれなりの計画を立てる。客先の担当者に言わせると、来年は若干上向きになるとのことであった。
		電気機械器具製造業（取締役）	・来年度にかけ数字が見えている取引先もある。設備投資意欲も高まってきた。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新規車両の生産計画が最盛期になる。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・家電向け、業務用サーバー向けのほとんどの製品が品薄のため、増産を進めている。徐々に売上も伸びる。
		通信業（経理担当）	・自治体における災害対策及び導入経費削減として、クラウド対応の施策が今後見込まれ、受注量増加の追い風になってくる。
		金融業（調査担当）	・円高の影響が懸念されるが、需資は堅調である。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・東京オリンピック効果への期待がある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・人材の採用や教育に積極的な会社が多く、しばらく続く。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・この1月は非常に寒くインフルエンザの流行もあり、人出が抑え気味だった。2月も同様だろうが春にかけて解消していき、3か月後は今よりもかなり良くなる。
		その他サービス業〔物リース〕（支社長）	・当社に限っても人手不足で、中途採用活動は増加中である。また申込者も多く、特に銀行勤務の20歳代が多い。ぐんぐん機械化、省力化の案件が増加する。
		農林水産業（営業）	・野菜の高騰など他品目からの影響を受けやすくなっている。
		農林水産業（従業者）	・良くなることを期待したいが、寒波で商品が出ない時期がある。その後一気に出荷時期が来ることになるが、3月にその波が来ると2年連続で稼ぎ時の波を農家が失ってしまい、経営的にも厳しくなる。
		家具製造業（従業員）	・家具業界の売上指数が最も多い月が2～3月である。その観点から2～3か月先の景気は横ばいになる。4～5月の物件情報も半年並みである。
		化学工業（総務担当）	・年度末にかけて需要期となる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い等の情報から、仕事量は今後とも増加する。価格は依然厳しい。
		建設業（従業員）	・見積案件は、増えているが、人手不足で受注できる案件が絞られてくる。久しぶりに公共工事も受注できたが、今後、受注が困難になる。よって景気は、変わらない。
		輸送業（従業員）	・全体的には、貨物動向が良くなる要因は見つからないが、半導体等、業種によっては下請会社へ設備投資を行うよう指示している会社もある。
		通信業（職員）	・折衝案件の状況から、年度末までは現在の受注水準で推移する。
		金融業（従業員）	・2月はスポーツキャンプの時期で観光客の落とす金はかなりのものだが、それは一過性のものであり3月になるとその反動がくるので、ほぼ変わらない。

	金融業（従業員）	・タクシーや貨物運送業では人手不足に加え、原油価格の上昇を懸念する先が増加してきている。一方、製造業中心に受注増から設備更新の動きが活発化してきているほか、家電販売も増加傾向にある。
	金融業（営業担当）	・気温が低い状態が続かないと仮定して、年度末に向けて暖かくなり客の購買意欲が若干は向上するが、全体的にはそう変わらない。特に小売業、飲食業の売上には注目したい。
	金融業（営業）	・世界的な需要は変化がなく実体経済は堅調である。
	不動産業（従業員）	・宿泊施設の稼働率が高止まりしており今後も継続する。
	広告代理店（従業員）	・1月の新聞折込受注枚数は前年同月比95%と依然前年を超えていない。年末年始商戦を通過したが、例年どおりの受注枚数となり、変化はなかった。スーパーマーケットや衣料品、サービス業は比較的好調であったが、自動車販売や通信関連業種が振るわなかった。全体として変わらない。
	経営コンサルタント（社員）	・長期契約が多く簡単には増加しない。この意味では景気は変わらない。
	経営コンサルタント（社員）	・店舗等は吸収合併により譲渡されるものの、店舗数に変化はない。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の調査や計画、設計の委託業務は、12月補正予算で計上されないと新規発注は見込めず、受注できないまま推移していく。残予算があっても金額は低く、売上増には結び付かない。このため、景気が悪いまま推移していく。
	食料品製造業（経営者）	・季節要因で販売量、生産量共に減少する。
	繊維工業（営業担当）	・今の時期で受注が少ないので、2～3か月の間に多くなって受注過剰にはなるといったことはない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・直近3か月の受注に下方修正が入った。
	精密機械器具製造業（従業員）	・2月までは受注先からの増産計画がきている。まだはっきりとした計画は出ていないが、3月以降は厳しくなる。
	輸送業（従業員）	・この先の変化要素も乏しく現状が好調であるため今後は悪くなる。
	輸送業（総務担当）	・大手運送会社の大幅な値上げにより、中小企業がかなりの打撃を受けている。今後体力のない中小企業や、利幅の薄い業種は淘汰されてくる可能性が高い。
	建設業（社員）	・官公庁は、工事費予算は前年並みと発表しているが、地方では明らかに減少している。年度末、年度初めに向けて民間工事に力を注ぎたいが、民間投資も建築に対して土木工事は少ない。現在は年度末、年度初めに向けて、社員を遊ばさないように赤字覚悟で受注していく。
	x	
雇用 関連 (九州)	-	-
	人材派遣会社（社員）	・年度末の需要も例年どおり依頼がきている。また、新年度より派遣料金を上げてくれる企業も出てきている。
	人材派遣会社（社員）	・年度末から新年度にかけて契約更新の時期であると同時に、新卒不補充率などの依頼が出てくる。求職者の動きも時期的には活発になるので市場自体に動きが出てくる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・しばらくは寒さが続くが、春先の天候次第では観光や消費も伸びていく。
	人材派遣会社（社員）	・企業からの依頼は引き続き順調に増加するが、人材不足のため成約案件は結果的に横ばいの状況が続く見通しである。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・例年、第4四半期は求人数が伸びているので、それに期待したい。
	職業安定所（所長）	・業種によっては人手不足が継続するが、景気は同様に推移する。
	職業安定所（職員）	・介護・看護等の採用が難しい職種では、人手不足が事業の足かせとなっている。一方、製造業は半導体関連で採用が活発であるが、無技能の現場職から、システム開発等を担えるような技術者の採用に移行する傾向になってきている。
	職業安定所（職員）	・企業に今後の見通しを確認したところ、変わらない、下向くと回答が多かった。
	職業安定所（職員）	・ある農業協同組合では組合員数の減少により5～6年前から業績が悪化している。農産物の生産高の減少に伴い、販売量が減少していることによる。農家は後継者不足の問題が大きい。賃金に関しても他業種と比べて低い方であり、パート従業員の賃金は最低賃金を若干上回る程度である。
職業安定所（職業紹介）	・今後も求人数の増加傾向と求職者の減少傾向は続き有効求人倍率は高い水準で推移する。	
民間職業紹介機関（社員）	・労働契約法改正の影響がどのようになるか不明である。	

	学校 [大学] (就職支援業務)	・ 中小企業では、採用予定数を充足できていないため今年度末まで継続的に求人活動を行っている企業もある。ただし、景気の動向と求人状況との関連性については明言できない。
	人材派遣会社 (社員)	・ 造船業の分社化などの影響が下請に出てくる。
	人材派遣会社 (社員)	・ 労働契約法改正の有期雇用の満期 5 年時期が来る。
x	-	-